

持続的な経済発展と地域活性化の関連について

～ (仮称) 墨田区産業観光マスタープランの策定～



【総括】墨田区産業振興マスタープラン(平成25年度～令和4年度)

<h2>ビジョン</h2>	<h3>10年後のビジョン</h3> <p><u>Stay Fab 楽しくあれ!</u></p> <p>すみだに住み、働く人々が「すみだらしさ」である「ものづくり(= fabrication)」の文化に「誇り」を持ち「楽しく(= fabulous)」過ごしている</p>
<h2>戦略・施策の方向性</h2>	<h3>戦略</h3> <p>『新しい「コト」を興す』</p> <ul style="list-style-type: none">• 進化・継承• 発掘・創出• 交流・誘発 <h3>施策の方向性</h3> <ul style="list-style-type: none">➤ 産業と観光の融合➤ 外部資源の活用と人材育成➤ 新しいものづくりの拠点➤ 新分野への展開➤ 消費者を意識した新しい商業展開➤ 区の基本的な取組姿勢(商・工・観の融合、意識の高い事業者への「集中的」支援)
<h2>総括</h2>	<ul style="list-style-type: none">◆ 新ものづくり創出拠点やフロンティアすみだ塾などの実施により、ベンチャー企業やクリエイターの集積・企業ネットワークの拡大・強化といった成果が表れている。◆ 一方、区内産業を取り巻く社会経済状況は、マスタープラン策定時から大きく変化していることから、社会状況等の変化に合わせ、短いサイクルで事業を実施・改善できるプランにしていく必要がある。◆ 区の基本的な取組姿勢をブラッシュアップさせつつ、各事業との紐づけを行っていく。

【総括】墨田区新商業振興プラン「地域力を育む商業空間づくり振興プラン」 (平成29年度～令和3年度)

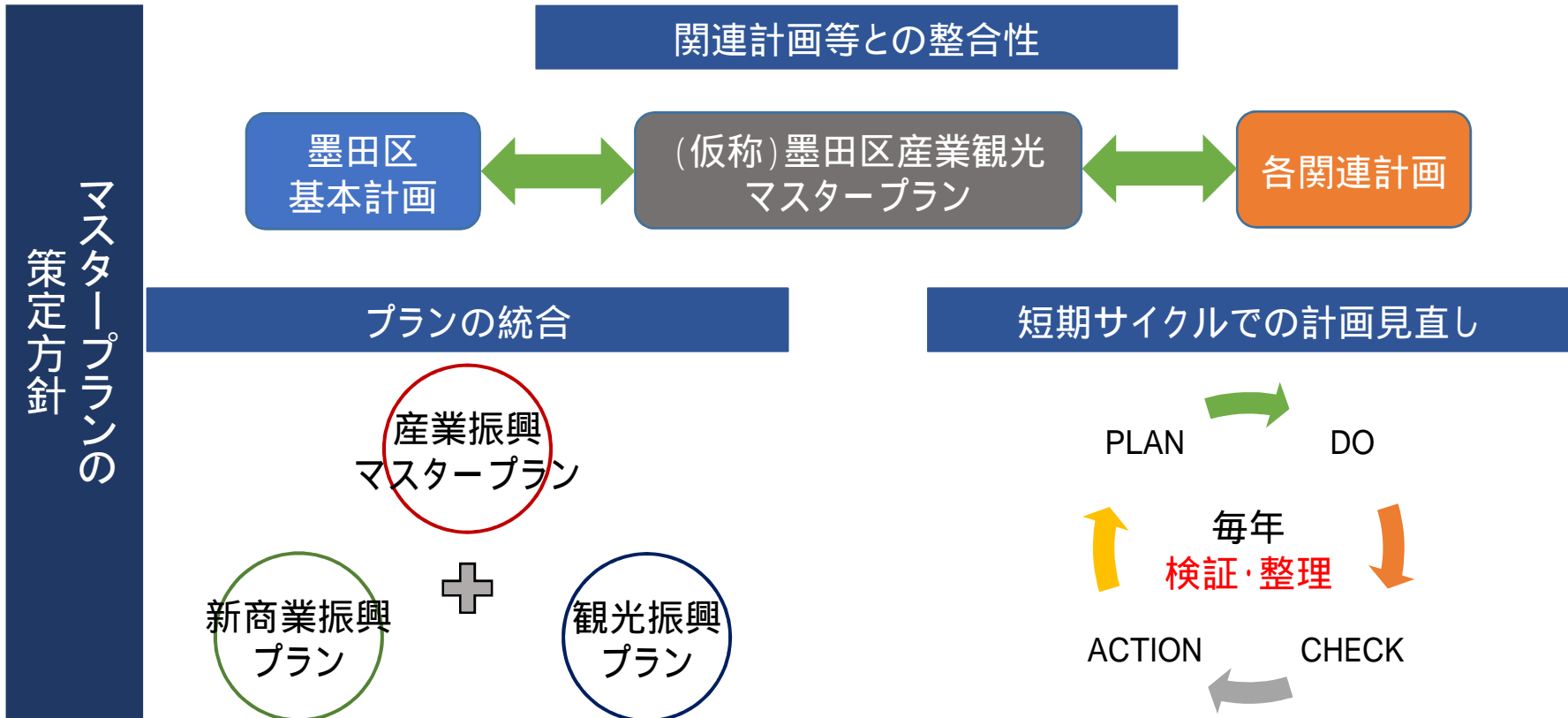
<h2>ビジョン</h2>	<h3>5年間で目指すビジョン</h3> <ul style="list-style-type: none">■ 商業者が自店舗の置かれた環境を踏まえた経営改善に取り組んで、成果をあげている■ 既存商業者の経営改善や、新規商業者の開業によって、各地域や商店街において魅力的な個店の密度が増加している■ 地域に信頼される人材によって、各地域においてエリアマネジメントの活動が具体化し、地域力が強化されている
<h2>基本方針・基本施策</h2>	<h3>基本方針</h3> <ul style="list-style-type: none">• 意欲ある商業者の、地域ニーズ把握や環境への対応を支援する• 地域ニーズを意識した個店経営を後押しして、魅力的な個店を増やす• 区内各地域に密着して顔の見える継続的な支援を行う <h3>基本施策</h3> <ul style="list-style-type: none">➢ 個店支援・創業誘致➢ 「商業コーディネーター(仮称)」「商業支援専門家(仮称)」の育成・配置・活用➢ 商業空間の調査、情報発信
<h2>総括</h2>	<ul style="list-style-type: none">◆ 区商連との連携や商業コーディネーターの活動等により、新型コロナウイルス拡大への柔軟な対応や魅力的な個店の増加といった一定の成果が表れている。◆ 一方、社会経済状況は大きく変化していることから、既存の区内商店や商店街への支援はもとより、商業コーディネーター等を活用し、地域との信頼関係を構築した上で、魅力的な個店の創出や情報発信などを引き続き行っていく。

【総括】墨田区観光振興プラン(平成27年度～令和2年度)

ビジョン	6年間で目指すビジョン 東京スカイツリー®を活かし、暮らしてよく、訪れてよい、「国際観光都市すみだ」をつくる。		
基本理念・ 観光都市づくり の視点・戦略	基本理念 <ul style="list-style-type: none">• ビジターズ・インダストリー(観光の視点を生かした幅広い産業群)の創出• 愛着と誇りの持てるわが街すみだづくり• 総力を挙げて取組む観光まちづくり	視点 <ul style="list-style-type: none">• 国際観光• まち歩き観光• こだわり観光	戦略 <ul style="list-style-type: none">➢ 観光プロモーションの充実➢ 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集➢ 産業と観光の融合➢ 水都すみだの再生➢ 観光振興を支える基盤の充実
総括	<ul style="list-style-type: none">◆ スカイツリーの開業により、墨田区の知名度は向上してきた。◆ 一方、策定時に想定していた「スカイツリーを起点に様々な観光資源を回遊する」という観光スタイルは観光客の実態と大きく乖離している。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大によるインバウンドの消失など、策定時と状況が大きく変化している。◆ スカイツリー中心の観光から脱却するため、地域の魅力を掘り起こし、そこに光を当てる(=日常の観光資源化)ことで地域の価値向上を図っていく。		

(仮称) 墨田区産業観光マスタープランの策定

背景：「平成30年度墨田区産業振興会議」において、区内産業を取り巻く社会経済状況が大きく変化していることから、平成25年3月に10年計画として策定した「墨田区産業振興マスタープラン」を早期改定する必要があると報告があった。



目次

- 1 ミッション・ビジョン・行動規範 要約
- 2 マスタープランの構造・評価の視点
- 3 墨田区産業観光の歴史と現在地点
- 4 未来予測シナリオ
- 5 最悪のシナリオ
- 6 目指すべきシナリオ
- 7 **ミッション**
- 8 **行動規範**
- 9 **ビジョン**
- 10 重点目標
- 11 ミッション・ビジョン・行動規範まとめ
- 12 戦略の全体像
- 13 **個別戦略**
- 14 事業全体像
- 15 まとめ
- 16 資料編

概要

想いをつなげ、未来を拓く。

前を向いて進もうとする「人」に寄り添い、共に悩み、時にぶつかり合いながら、これからも熱い「想い」に向き合っ
て、まちの「人」たちの幸せを考え続けたい。

- **現場第一**
- **熟慮断行**
- **一致協力**

本気の夢中が出会い、世界からも注目されるまち。

持続可能で多様な生き方を包摂する社会の実現という世界共通の課題に対して、すみだでしかできないやり方で取り組み、世の中に広く発信する。

- **育む**: 持続可能なこだわりある活動や事業を育成・支援する。
- **繋げる**: 関係人口を拡げ、つながりによる開かれた成長を後押しする。
- **発する**: 墨田発の活動や事業のプロセスや成果を積極的に発信する。

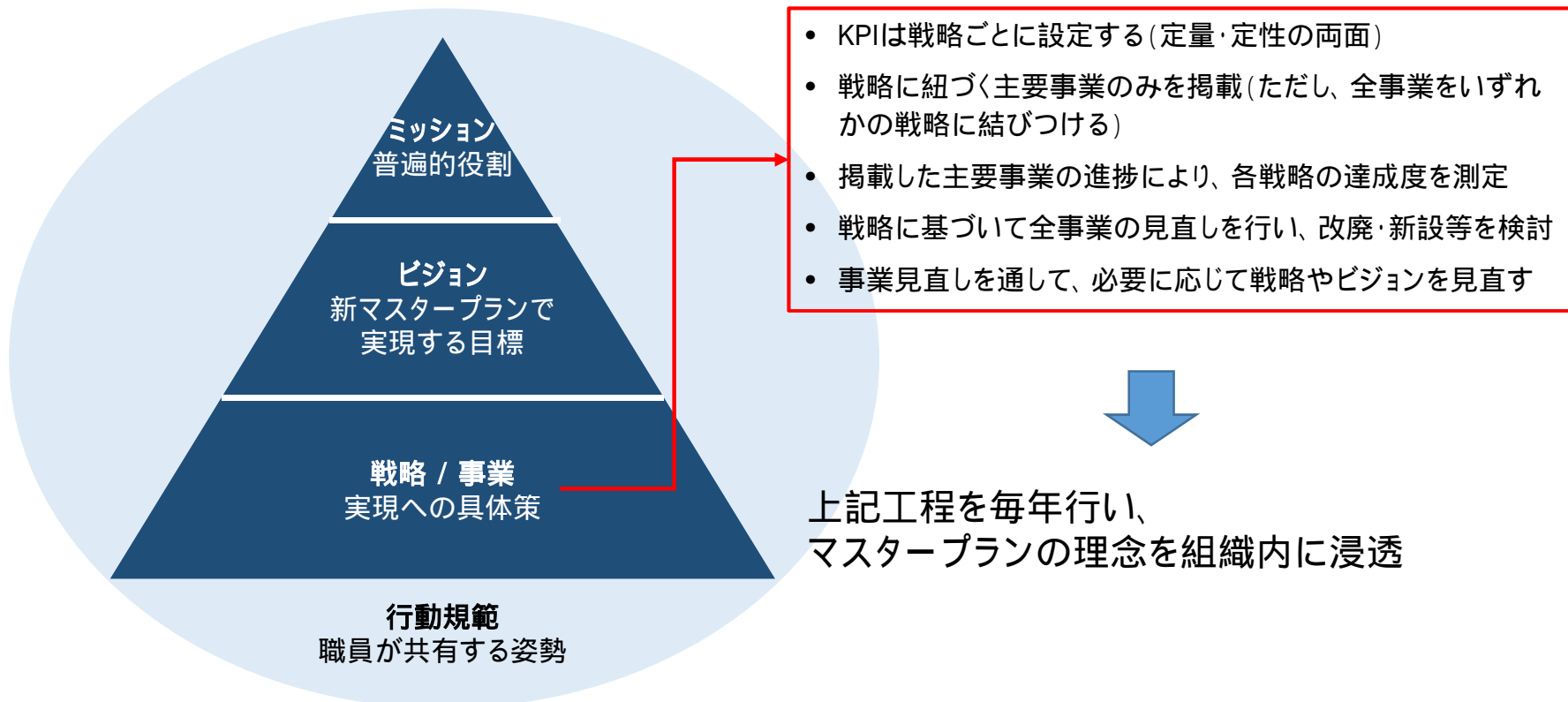
(仮称) 墨田区産業観光マスタープラン構成案

～ ページ構成 ～

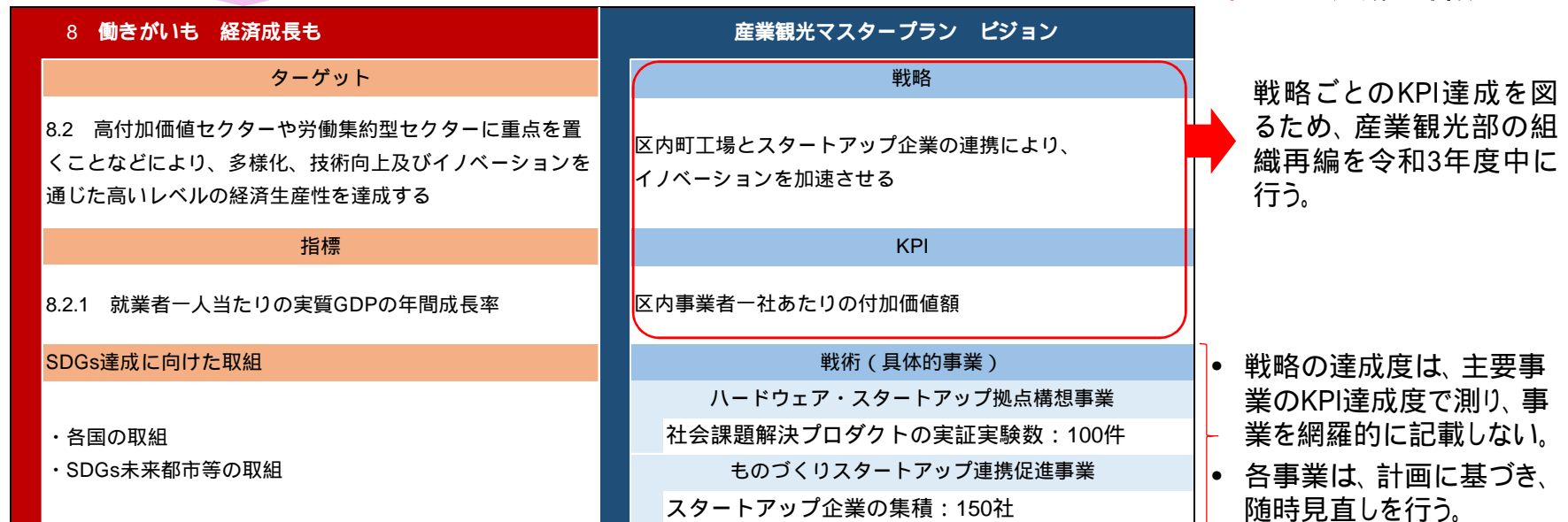
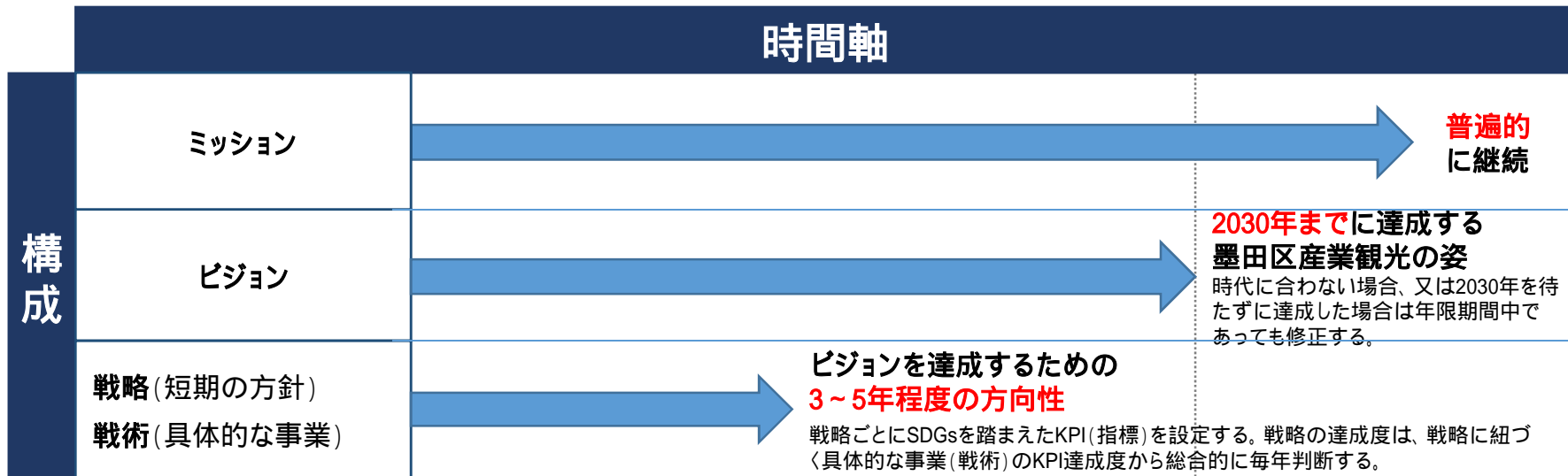


(仮称)墨田区産業観光マスタープラン構成案 ~プランに基づく事業管理~

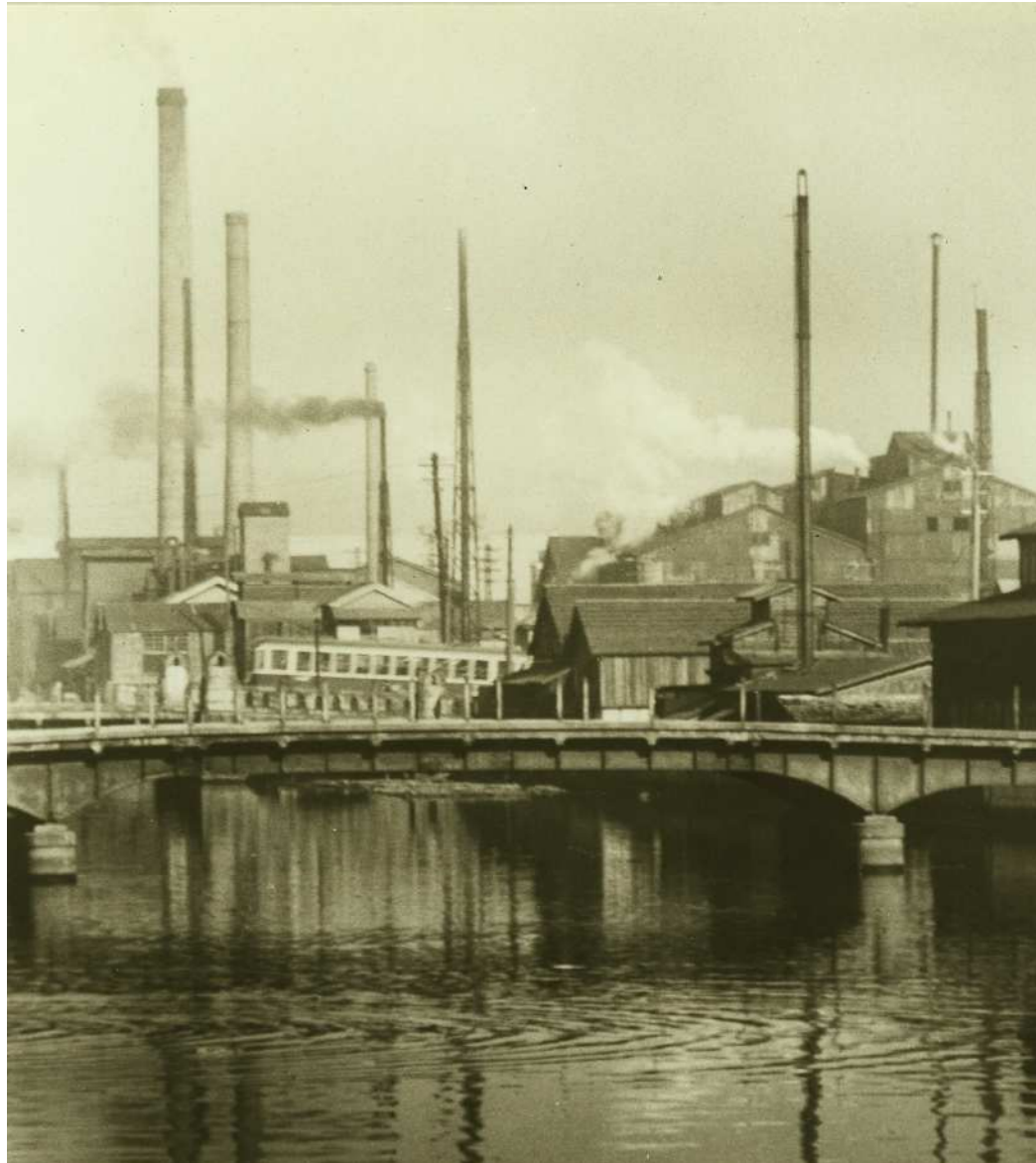
1. ミッション:新マスタープランの策定にあたって、産業観光部の普遍的な役割を再確認
2. ビジョン:新マスタープランの遂行で達成したい墨田区産業観光の姿
3. 戦略/事業:目標達成のための具体策の策定
4. 行動規範:上記の遂行にあたって求められる業務姿勢



産業観光マスタープランの進捗管理



プロローグ:墨田区における産業振興の始まり



現場主義

墨田区の産業振興は、「中小製造業基本実態調査」から始まった。1977～1978年の2年かけ、すべての区内製造中小企業に対して行われたこの調査は、区職員が地域の「人」たちの日々の営みに触れ、産業振興の重要性を考えるきっかけとなった。そして、1979年、墨田区は全国で初となる「中小企業振興基本条例」を制定し、当時の職員たちは現場に足を運び、汗をかきながら、産業に携わる「人」たちの支援を行ってきた。

ミッション(産業観光部の存在意義)

私たち“墨田区産業観光部”の使命は、このまちに脈々と受け継がれてきた「想い」を、絶やすことなく未来へ確かにつなげていくことである。何かを成し遂げたいという熱い「想い」があれば、「人」は挑戦を楽しみ、「働きがい」を「生きがい」へとつなげていけるからだ。

墨田区の産業観光に携わってきた先人たちは、区内に働く「人」たちを支えることが地域の活性化になると信じ、様々な施策を実施してきた。その精神と行動こそが私たちの原点である。私たちは、常に挑戦し続ける「人」たちの熱い「想い」が、様々な「人」に輝きを与え、地域を支え日本を変えると信じてきた。そして、そうした「想い」に勇気づけられてきた。

想いをつなげ、未来を拓く。

「想い」の源にはいつも夢がある。生業や活動を通して夢の実現に挑戦し続けることによって、自分のためだけではない誰かの幸せにつながり、世の中でまっとうに評価される価値、つまり有形無形の「稼ぎ」に結実し、地域の自律継続的な発展が可能となる。特に熱い「想い」の共鳴から生まれる新たな可能性や「人」のつながりは、金銭には代えられない地域の財産となる。私たちはこの「想い」やつながりを支え続ける。

地域が発展することによって、多様な視点からさらに新たな価値観が生まれ、まちに関わる「人」たちのつながりや生きがい、さらには経済の仕組みに至るまで、これまでとは違うありようが見えてくるはずだ。それはまちの姿すら変えてしまうかもしれない。それでも私たちは変わらず、前を向いて進もうとする「人」に寄り添い、共に悩み、時にぶつかり合いながら、これからも熱い「想い」に向き合って、まちの「人」たちの幸せを考え続けたい。

行動規範(産業観光部職員が共有する価値観)

現場第一

現場がすべての学びの出発点である。現場の声に耳を傾け、人の想いに触れてこそ、自分たちに何が求められているのか知ることができる。常に好奇心を持ち、そこから解決すべき課題を自ら探し、見つけだすこと。

熟慮断行

課題は複合的に絡み合い、当たり前を感じたことも変わっていく。常に広い視野を持ち、自らのバランス感覚を養うことで、取舍選択や状況に合わせた判断が可能になる。すべての情報や意見を精査して最善の策を深く考え、すばやく確実に実行に移すことを心がけること。

一致協力

私たちは誰も万能ではない。しかし皆で協力すれば一人ではなしえないことが可能になる。一人で抱え込むことなく、ひとつの部として、気軽に周りの人に相談し、互いに助け合うこと。

ビジョン(目指すべきまちの姿)

本気の夢中が出会い、 世界からも注目されるまち。

2030年までの重要目標達成指標(KGI)

- 区内製造業付加価値額の増加
- 区内小売等付加価値額の増加
- 区内起業件数の増加

すみだの魅力は、このまちを愛する人々の情熱によって創られ、時代の変化と共に進化してきた。言い換えるならば、すみだは歴史ある文化や多様な産業の集積を背景にしながらも、常に現代的であると同時に未来を見据え続けてきたとも言える。ではひどく不確かにさえ思える2030年という未来に対して、すみだは産業観光という切口から何を夢見るのだろうか？

それは持続可能で多様な生き方を包摂する社会の実現という世界共通の課題に対して、このまちでしかできないやり方で取り組み、世の中に広く発信することだ。持続可能や多様な生き方という難しく聞こえるかもしれないが、例えば町工場が区外のベンチャーと組んで環境問題の解決に役立つ装置を開発することや、個性的な商店が連なる商店街が地域の魅力を更新し続けることなど、それぞれの立場で色々な取組があっっている。肝心なのは当たり前な日常を次の世代に届けるために、それぞれの夢を緩やかなつながりのなかに育み、本気で実現させていく姿勢だ。

産業・商業・観光・文化を問わず、こうした活動を続けていくことで、区内外はもちろんのこと海外からも「すみだでなら新しいことが出来る」とか、「すみだでは日々の何気ないことでさえどこか楽しげだ」といった評判が高まっていくだろう。そうした評判は区民には誇りと挑戦する勇気を、区外や海外の人には「すみだに行ってみたい、すみだの人と何かやってみたい、すみだで働きたい、すみだに住んでみたい」といった気持ちを呼び起こす。そこにまた新たなつながりや関係が生まれ、すみだで育まれる夢はさらに大きく広がっていく。

「そんなのは都合のいい絵空事だ」と思う人もいるかもしれない。しかしだからこそ私たち産業観光部はこのビジョンをすみだの人たちと分かち合いたい。なぜならそこから生まれる議論や共感からのみ、世界にも通じるすみだの豊かな未来を築くことが出来ると信じているからだ。さぁ本気の夢中をみなで分かち合おう。

戦略(ビジョン達成に向け、重点的に取り組むこと)

ビジョン達成に必要な視点	課題の発掘と解決	地域にある価値の発見	共感	わかりやすい発信	失敗を許容する
--------------	----------	------------	----	----------	---------



持続可能なこだわりある活動や事業を育成・支援する。

世界的にサステナブルなあり方が問われ、経済活動にもその姿勢が求められるようになってきている。持続可能性への配慮は事業者等にとって負担となるが、大きなビジネスチャンスでもある。今後は、区内事業者を始めとした様々な人たちが主体的に活動や事業に取り組み、こだわりを持って続けられるよう、誰もが挑戦できる土壌を整備するとともに、その挑戦が地域の価値向上・価値循環に結び付く仕組みづくりを行っていく。



関係人口を拡げ、つながりによる開かれた成長を後押しする。

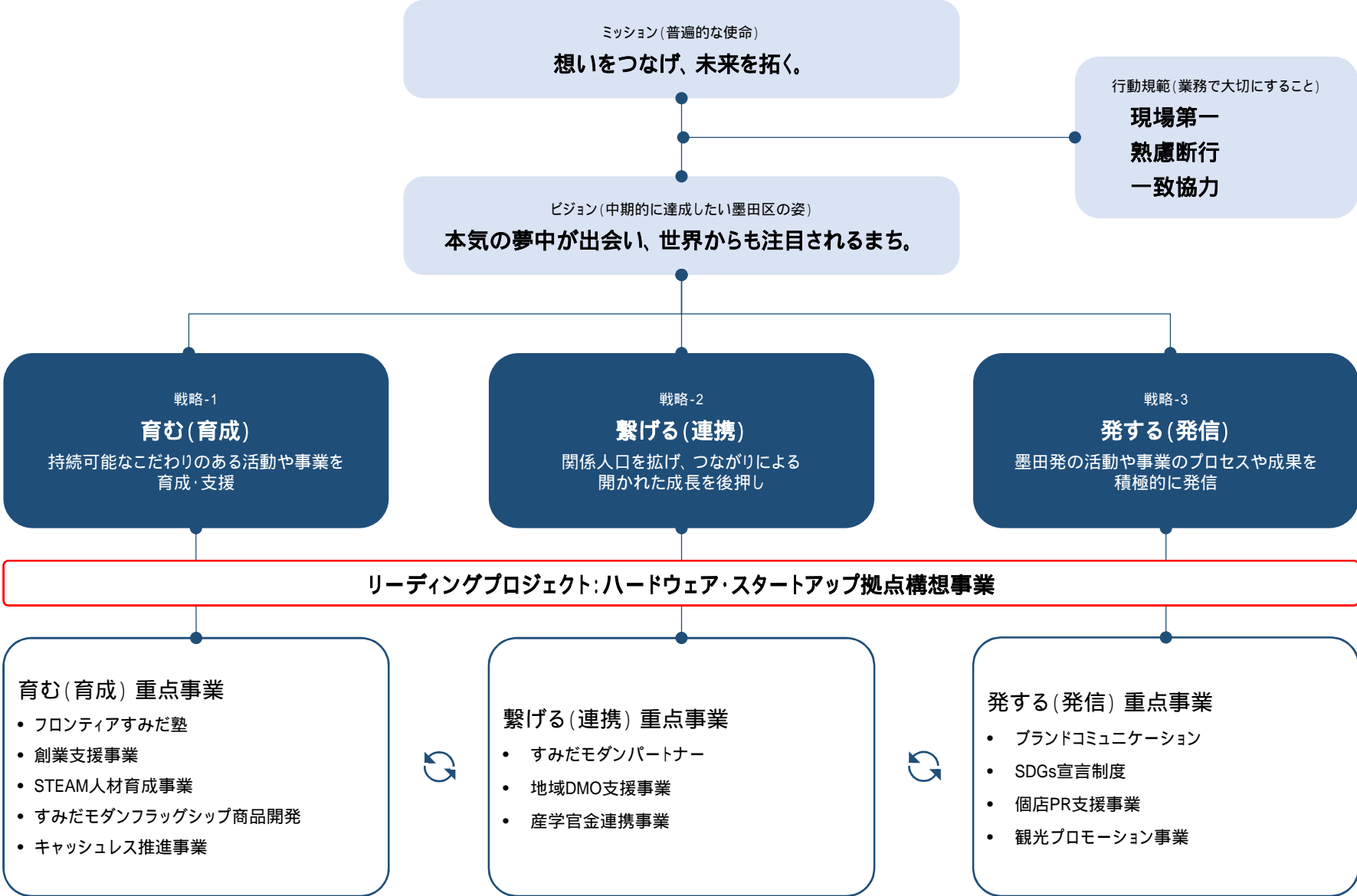
日本国内では人口減少に伴い、新たな課題の顕在化や経済成長の鈍化が進行している。産業観光が次のステージに進むためには、地方自治体でも枠を超えた繋がり創出が重要である。今後は、区内外の様々な繋がり、即ち、関係人口をオンラインも活用し、拡げていくことで、新たなアイデアや人を呼び込み、つなげ、このまちだけに留まらない成長を生み出していく。



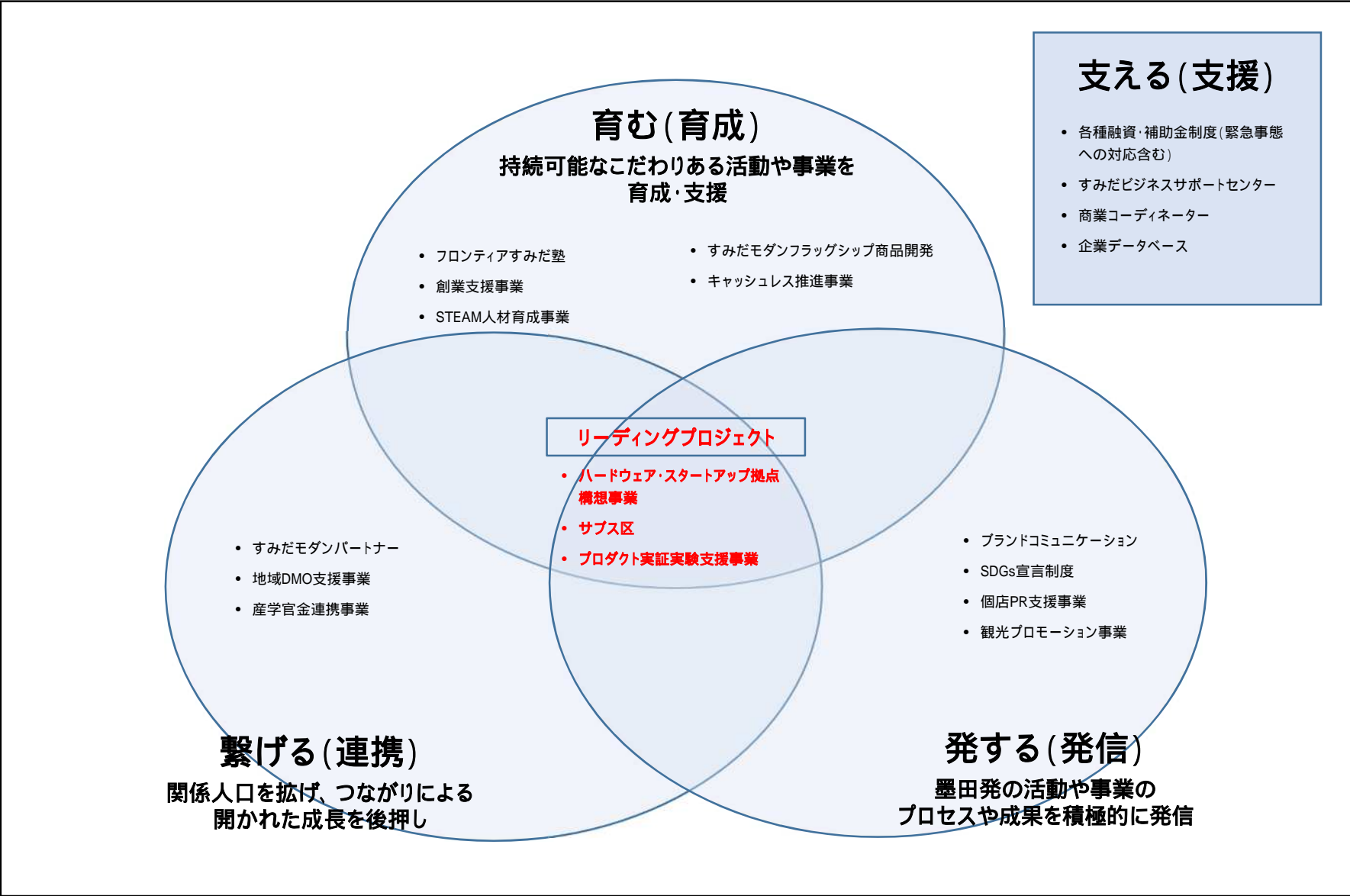
墨田発の活動や事業のプロセスや成果を積極的に発信する。

特色ある工場の集積や魅力的な商店・商店街、東京スカイツリー®といった観光資源など、墨田区では様々なコンテンツを生かし、多彩な活動や事業が行われてきた。今後もこのまちの歴史・風土・日常が魅力的であり続けるため、行政も区内の活動を自ら掘り起こし、そのプロセスも含め、編集しながら、区内外に積極的に発信していく。

重点戦略の全体像(イメージ)



重点事業の全体像(イメージ)



産業観光マスタープランにおけるSDGsの考え方

Sustainable Development Goals (SDGs、持続可能な開発目標)とは？

2015年9月の国連サミットで全会一致で採択された2030年を年限とする国際目標

- ・17ゴール、169ターゲット、232指標で構成
- ・キーワードとなる5つの「P」:
People、Prosperity、Planet、Peace、Partnership

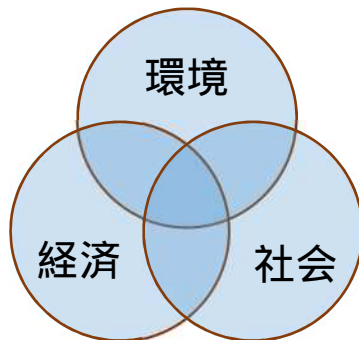
前身のMDGs(2001年策定)では、主に途上国が達成すべき8ゴールが記載されていたが、SDGsでは先進国・途上国に関わらず、全ての主体が取り組むべきゴールに再設定されている。



目的:豊かで持続可能な社会の実現

産業観光部とSDGsの関係性

複眼的視野に立った取組の実施



目標8「働きがい」と9「経済基盤」に注力



内閣府の取組:SDGs未来都市

SDGsの位置づけ

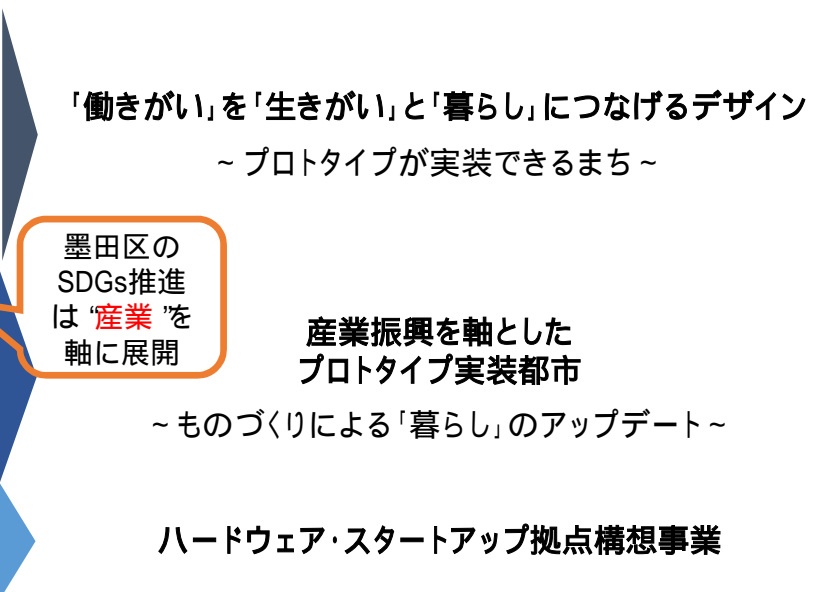
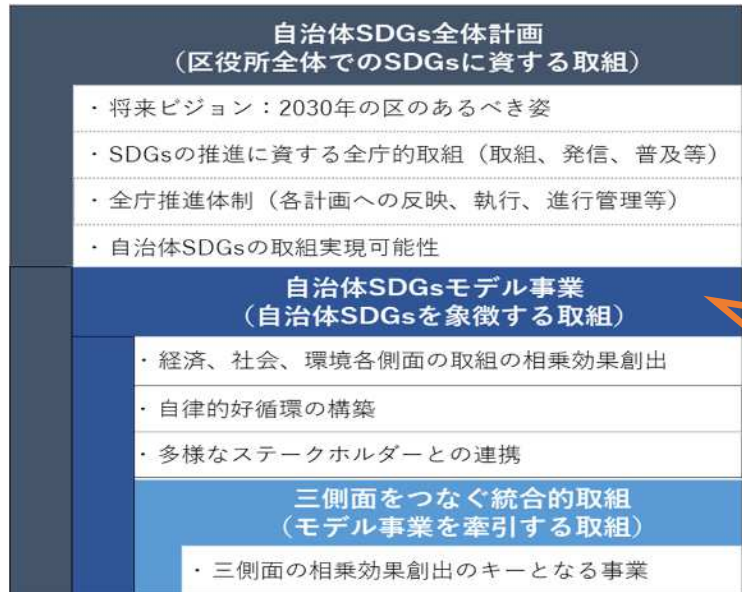
第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」
 「Society5.0の推進」と「SDGsの達成」を地方創生の重点業績評価指標として設定

2024年KPI(成果目標)
 都道府県及び市区町村におけるSDGsの達成に向けた取組割合:60%

SDGs未来都市

SDGsに関する優れた取組を行う地方公共団体を毎年30自治体程度選定
うち特に先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として毎年10事業選定

- 2018～2021年度 未来都市:124自治体 モデル事業:40事業
- 2021年度 墨田区は「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」にダブル選定



モデル事業の概要

産業振興を軸としたプロトタイプ実装都市 ～ものづくりによる「暮らし」のアップデート～

- ・スタートアップ企業と区内企業との連携によるプロトタイプ開発
- ・社会実験としての地域実装
- ・開発から実装までのプロセスにおける地域と企業とのコミュニケーション促進



- 社会課題解決と地域内経済循環の促進
- 持続可能なまちの実現

経済

- 区内企業とスタートアップ企業の連携によるイノベーション創出
(例)分身ロボットOriHimeの開発・社会実験
- 区内循環バスを含めた地域交通の在り方の検討
(例)MONET Technologies株式会社との連携によるハードウェア開発



社会

- ビッグデータ活用による区民の健康度評価研究
(例)千葉大学との連携による健康度の見える化
- 個人だけでなく組織全体の「健康」を創造する仕組みづくり
(例)墨田区版「健康経営」認定制度



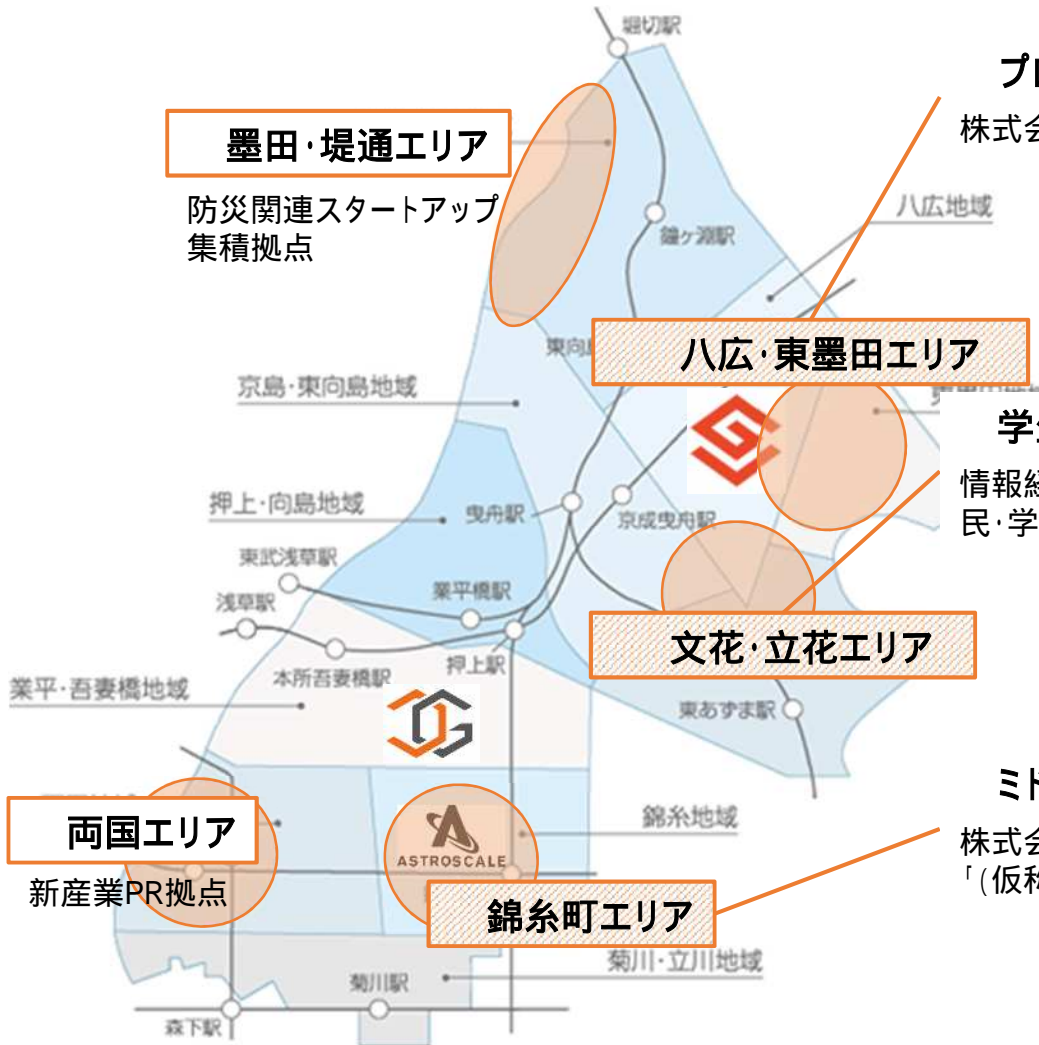
環境

- 2Rを優先した啓発活動の強化によるごみの削減
(例)AI搭載「ごみ分別チャットボットの活用」
- COOL CHOICEを意識したエコライフの推進による行動促進
(例)脱炭素に寄与する環境にやさしい商品の購入



統合的取組の概要

ハードウェア・スタートアップ拠点構想事業



プロトタイプ開発・製造・実証実験拠点

株式会社浜野製作所と連携した「東墨田会館」の管理・運営



学生スタートアップ集積拠点

情報経営イノベーション専門職大学(iU)・千葉大学との「公・民・学」連携



ミドルステージ・スタートアップの開発・発信拠点

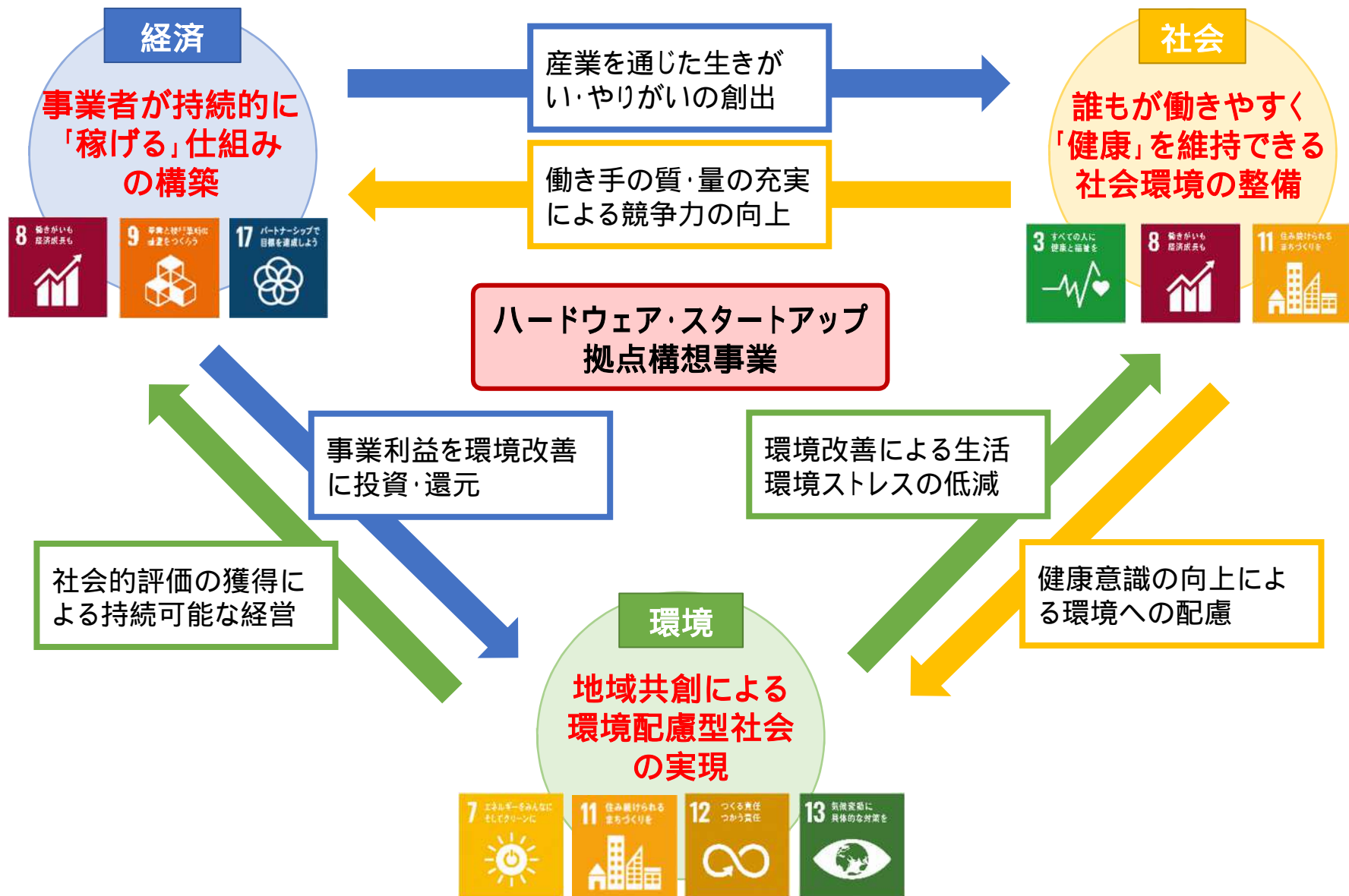
株式会社アストロスケールホールディングスを中心とした「(仮称)すみだコ・ラボ・ツリー」の整備



統合的取組の概要

<h3>八広・東墨田エリア</h3>  <p>日本有数のハードウェア・スタートアップ支援実績を誇る株式会社浜野製作所と連携し、スタートアップが開発・製造・実証実験を行う場を整備する。</p>	<p>区内企業とスタートアップの連携促進</p> <p>ICT技術等をものづくりに展開したIUの学生スタートアップ集積</p>	<p>ものづくりによる地域課題の解決</p> <p>ビッグデータを活用した区民の健康度評価</p>
<h3>文花・立花エリア</h3>  <p>在学中に全ての学生が起業するIUとの連携や、千葉大学の専門的な知見を生かしたまちづくりを推進する。</p>	<p>千葉大学と連携した調査・分析</p>	<p>カーボンニュートラルにも寄与する緑化の推進・生物多様性の保全</p>
<h3>錦糸町エリア</h3>  <p>区と協議の上、ヒューリック株式会社が新産業振興拠点を整備し、アストロスケールホールディングスといったミドルステージ・スタートアップを集積させる。</p>	<p>SDGsに対して具体的なアクションを行うスタートアップ等の誘致</p>	<p>世界的なスタートアップの発信力を生かした地域のイメージアップ</p> <p>SDGsや環境に対する区民意識の向上</p>

三側面の相乗効果



自律的好循環に向けて



本日ご議論いただきたいこと

説明した内容について、主に以下の点についてご意見やお考えをお聞かせください。

- ビジネスにサステナビリティ(持続可能性)の考え方を取り入れることの意義をどのように捉えているか？
- 企業が持続的に発展していくことは、地域全体の活性化にどのように寄与するか？
- 自律発展的な企業活動を持続させていくためにあたり、行政に求めることは何か？